



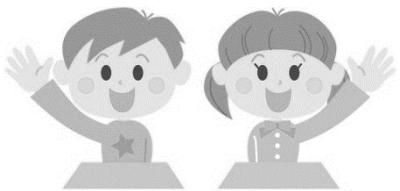
# 恵風だより



校長 黒川圭司

新年度がスタートし、5か月が経過しました。コロナ禍で迎えた令和4年度ですが、当初は感染状況も落ち着く中、校外での活動や行事の実施なども感染症対策を講じながら工夫して実施することができましたが、6月頃より広がってきた第7波により全国はもとより県内にも緊張感が走ることとなりました。そのような中においても、児童生徒たちは不安を見せることなく、日々の学校生活を通して落ち着いて生活することができたと感じております。また、保護者の皆様におかれましても、学校から発信する新型コロナウイルス感染症の情報へのご理解とご協力のおかげで迅速な対応に繋げることができ、大変感謝申し上げます。報道によれば、今後新型コロナウイルス感染症対策は、Withコロナへと対応が変化してくる流れであること…。とはいって、これまでの感染症対策を基本に、学校として安全に安心して学習に取り組める環境づくりは大切であると考えておりますので、状況を見ながら対応して参りたいと考えております。

先月7月26日に職員研修として、東北福祉大学の大西孝志先生をお迎えし、講演をいただきました。その中で、現在の教育の主流のひとつである、アクティブラーニング（主体的・対話的で深い学び）において、子供たちが机上での学習だけでなく、具体的に動いて活動することに主眼が置かれる場面が多いが、動くことだけがアクティブなのではなく、頭の中で思いや考えを張り巡らせたり、面白いと思うことやワクワクしながら楽しい心持でいたりすることも、アクティブラーニングなのだという内容のお話がありました。子供たちが日々の学習で表す感情や身体表現は様々ですし、学習に取り組む態度やこなしていく量もそれぞれです。我々教師は表に表出する反応だけをもって評価するのではなく、内面に持っているものやにじみ出てくる反応をしっかりと受け止めそこをしっかりと評価して次の学習に繋げていくことが大切だとあらためて感じました。「楽しい」「面白い」「これ何かな?」「次はこれをやってみたい」「頑張ってみよう」…など、子供たちが抱くプラスの感情の積み重ねの先に社会というステージを繋げていくことが理想です。支援学校で学ぶ期間の中で、学ぶことに対するプラスの感情をたくさん膨らませながら、一人の人間として大きく成長してほしいと願っています。



さて、8月19日より始まっている中盤は、盛夏から初冬までのロングランです。この時期に大きく成長する時期でもあります。子どもたちの成長する姿をしっかりと見守っていきたいと思います。

## 夏休み明けの学部の様子

### <小学部>

休み明けすぐに、新型コロナウイルスの影響が出始めましたが、元気に登校できた児童は、プール学習に夢中の毎日でした。

9月に控えている校外学習や宿泊学習、修学旅行に向けて、心も体も整えていきたいと思います。

### <中学部>

夏休み明け、元気に登校できた生徒たちは、ちょっと照れくさそうに友達と話したり、学級で休み中の様子を発表したりと充実した夏休み明けの初日でした。今後、いろいろな行事があります。体調を崩さぬよう過ごしていきたいと思います。

### <高等部>

生徒達は、9月1日に行われる「Tryスポーツ」（岩手県特別支援学校スポーツ交流大会）に向け、陸上競技やフライングディスク、フロアボウリングなどの競技種目の練習に取り組んでいます。10月には後期現場・校内実習、11月には恵風祭と行事や学習活動が盛りだくさんです。